

## R16a すばるディープフィールド I — 観測と結果

岩室史英 (京大理)、舞原俊憲 (京大理)、本原顕太郎 (京大理)、寺田宏 (京大理)、後藤美和 (京大理)、岩井淳一 (京大理)、田辺裕久 (京大理)、田口智之 (京大理)、秦隆志 (京大理)、大屋真 (通総研)、吉井譲 (国立天文台)、戸谷友則 (国立天文台)、すばる望遠鏡チーム

すばる望遠鏡と近赤外線カメラ CISCO を用いて、北銀極近くの  $2'$  角の暗い天域 (すばるディープフィールド: SDF) を近赤外  $J(1.25\mu\text{m}), K'(2.13\mu\text{m})$ -band で深い撮像観測を行なった。露出時間はそれぞれの波長帯で 10 時間前後、 $S/N=5$  の限界等級は  $25.1/23.8\text{mag}$  ( $J/K'$ ) に達し、300 以上の天体が検出された。ダミー天体を用いたシミュレーションの結果を用いて補正された銀河計数の結果は 2 つの band で良く一致し、暗い側での傾きは 0.23 と緩やかな傾きを持つものとなった。ここでは、SDF の観測から解析、天体抽出とシミュレーション結果を用いた銀河計数の補正法に関する発表を行なう。